

難聴者の補聴器購入に係る負担軽減を求める請願

討論要旨 日比野和雄議員

本請願の願意、加齢性難聴に対し、補聴器の普及により高齢者が生活の質を落とすことなく心身の健康を保ち、鬱病や認知症の予防、ひいては健康寿命の延伸、介護や医療費の抑制に寄与するところは共感できる場所です。

しかしながら、一方で、補聴器で音を大きくしたときに不快を感じてしまい、せっかく購入しても使わなくなってしまうなどの問題点も指摘されております。また、一口に難聴と言っても、幾つかのタイプに分かれ、その原因も様々と考えられること、そして、補聴器の装用には正しい理解が必要であり、難聴の心配がある場合、耳鼻咽喉科での診察が必要と考えます。

補聴器購入の公的補助を行うとすれば、その財源確保をどこに求めるかという問題も生じてきます。

このような状況の中で、公的補助制度の創設は種々の要因を考慮する必要があると考えます。

以上の理由から、現段階では賛成できないため、これをもって本請願への反対討論とさせていただきます。